

関係活動モデルに基づく造形活動の観察とその分析 2

— 観察記録の比較を中心に —

手良村昭子

瀧川光治

(東大阪大学短期大学部) (樟蔭東女子短期大学)

1 研究目的

本研究では、保育場面の描画活動を関係活動モデルを基に観察し分析することで子どもがその活動の中で何に面白さを感じて活動しているのか、外的活動と内的活動はどのように結びついているのかを分析してきた。観察の方法としては、ビデオによる分析を主にしてきたが、日々の保育で観察を積みながら子どもの活動内容や発達を把握していくためには分析するカテゴリーをより簡潔にまとめてその場で観察したものを分析できる方法が理想である。今回はその分析法の手がかりとして、これまでの描画活動における活動モデルの外的操作と内的操作のカテゴリーを整理し、ビデオ記録による分析と保育士による記録の分析の比較を行い、それぞれの良い点と問題点を挙げながら、現場での分析の可能性を考察していきたい。

2 観察の手続きと方法

① 観察の対象と方法

日時 2002年 7月30日 (火)

AM10:00~11:15

場所 滋賀県野洲町 M 保育所

人数 5歳児 14人

対象児2人(けいこ)(たかし)

観察の対象の選択は、保育者の助言を得つつ、活動の系で課題を持っていると思われる子どもとそうでない子どもを選んだ。観察する活動としては、点描法による観察画とした。個人観察として対象児一人につき一人の保育者が観察記録をとり、同時にビデオ2台を設置した。

② 記録の整理の方法

筆記及びビデオで撮られたテープは、前の論文(玉置、手良村、瀧川2001)を参照にして整理した。要点はまず、保育者が記録した活動の記録とビデオテープでとった活動の記録から外的行動を確定した。また、同時に内的操作が働いていると思われる行動に関してチェックした。その際に、観察者の間では事前に外的行動の記録の取り方には討議を重ねてビデオを見直した。また、子どもの外的行動を記録にとどめることを意図したのは、どのような言葉や動作も子どもの内言や外言が内的操作を表しているという可能性があるとの自覚に基くものである。これは、子どもの発言がテープに残っている場合には比較的容易に記録することが可能であった。ただ、子どもの独り言などは記録者が横にいても聞き取れないことがあり、この点は記録の精度から言うと問題があると思われる。

今回、前回と同様に苦労したのが外的行動を踏まえて検討した「内的操作」の側面である。前回使用した質的カテゴリーの反省点を踏まえながら、今回は活動を面白さのタイプで分けて新しくカテゴリーを作り直した。

表1 活動の面白さの質的カテゴリー

タイプ	項目	外的行動	内的操作
0 なし	なし	活動に参加しない	おもしろくない
1 活動の面白さ (2,3,4,5.を除く)	1 導入	導入の話を集中して聞く。 対象物を見る 活動に集中して取り組む。	活動内容が面白い 対象物に興味を持つ
	2 技法	面材や技法への興味 面材や技法の選択 正しい面材の持ち方が出来る。 面材を片付ける 他者や他者の作品を見る Tと対話する。	技法を使うのが面白い 友だちの作品や行動を見る ことがおもしろい。 Tと話したい。見て欲しい。
	3 その他		
2 形の面白さ	1 イメージ	1 こういうふうに描こうと考えながら描く。	1 形をイメージするおもしろさ
	2 構成	2 形を選択・配分・調和させながら描いて行く。	2 形を構成するおもしろさ (選択・配分・調和)
	3 その他		
3 空間の面白さ	1 イメージ	1 どんな大きさにしようか、まわりはどうしようかなど詳しく考えていく	1 描する面白さ
	2 構成	2 描くものを実際の取り組みの中で選択、配分、調和させていく。部分と全体を調和させる。	2 空間を構成する面白さ (選択・配分・調和) 部分と全体
	3 その他		
4 色の面白さ	1 イメージ	1 どんな色にしようか考える。	1 色をイメージする面白さ
	2 構成	2 実際に色を塗りながら選択・配分・調和させていく	2 色を構成する面白さ。
	3 その他		
5 デザインの面白さ	1 イメージ	1 どんなデザインにするか考える。	1 デザインをイメージする面白さ
	2 構成	2 デザインしたものを画面の中で構成していく	2 デザインを構成する面白さ (選択・配分・調和)
	3 その他		
6 その他		1 他のことに気を取られる	1 他のことの方が面白く感じる
		2 集中力がなくなる	2 あきてくる

3 ビデオ記録と保育士の記録の比較

ビデオ記録と保育士の記録を表1のカテゴリーで分析して項目別、タイプ別に比較してみると次の表2、3のようになった。この表よりけいこの行動の具体的例をビデオ、保育士の観察記録より示したものが表4である。一部分を抜粋したものなので対象児の一連の行動の比較として読み取るのは難しいが、記録のとり方の比較として特徴的な部分を挙げている。

表2 項目別 実数の比較

カテゴリー		(けいこ)ビデオ記録		(けいこ)保育士記録	
タイプ	項目	外的行動	内的操作	外的行動	内的操作
		0	0	0	0
活動	導入	10	6	10	9
	技法	15	13	10	5
	その他	18	18	7	2
形	イメージ	1	1	1	1
	構成	0	0	3	3
	その他	1	1	2	2
空間	イメージ	2	0	0	0
	構成	7	4	2	0
	その他	0	0	0	0
色	イメージ	9	8	3	2
	構成	14	7	7	4
	その他	1	0	2	3
デザイン	イメージ	1	1	0	0
	構成	2	2	3	3
	その他	0	0	0	0
その他	A	1	1	1	1
	B	0	0	1	1

表3 タイプ別 実数と%の比較

タイプ	頻度(実数)				%			
	ビデオ		保育士		ビデオ		保育士	
	外的行動	内的操作	外的行動	内的操作	外的行動	内的操作	外的行動	内的操作
	0	0	0	0	0%	0%	0%	0%
活動	43	37	27	16	52%	60%	52%	44%
形	2	2	6	6	2%	3%	12%	17%
空間	9	4	2	0	11%	6%	4%	0%
色	24	15	12	9	29%	24%	23%	25%
デザイン	3	3	3	3	4%	5%	6%	8%
その他	1	1	2	2	1%	2%	4%	6%
計	82	62	52	36	100%	100%	100%	100%

表4 具体的な行動(事例の抜粋)

ビデオの記録	保育士の記録
黄色で甲羅を点描しながら「魔法のペンみたい」とつぶやく。	黄色の絵の具と筆を持って始める。 「魔法のペンみたい」「魔法のペンみたい」2回つぶやく。
甲羅ひとつひとつを点描していく。	甲羅全部の真中部分を黄色で塗る。

緑の絵の具を持ってきて点描。

緑の絵の具で前足3本を点描していく。
次に顔を緑で点描。
次にしっぽを点描。
次に後ろ足の空いているところを緑で点描していく。また、顔の部分を点描。
絵の具を替えに行く。

黄色の絵の具を持ってきて、カメの甲羅のまわりを点描する。(筆を立てて小刻みに軽いタッチで)
全体を見ながら、空いているところを黄色で色を埋めていく。(小刻みなところと力を入れて押しながら塗るところとある。)

縁取る感じに緑の絵の具を塗っていく。

緑の絵の具で手、顔、尾を一気に塗る。

かめの甲羅の隙間、黄色で塗る。

4 考察・まとめ

今回のこの観察記録を比較することで、同じ場面でも同じ目的で観察をしてもビデオ記録と観察記録では子どもの活動の内容がある部分で違うように見えてくるといふ問題点が生じることがわかった。これは、ビデオでは全体的に子どものありのままを捉えることが出来るが、周りの環境によって音声途絶えたり、場面が切れたりと言うトラブルが生じる部分があるとすること、細かい行動の見落としがあるということ観察記録では、記録を取る観察者の行動を見るポイントの置き方によっても分析の内容が変わってくるという点で考えられる。しかし、活動全体としてみるとその子どもの活動の流れや特徴はあまり差がないように読み取れる。これは、ここで確定したカテゴリーが何らかの修正は必要とするものの現場での観察のカテゴリーとして使用できる可能性があるといえる。今後は、別のメソッドを使った描画表現の中でもこのカテゴリーで分析することが可能かを調べながら、カテゴリーの確定をするとともに、現場での造形活動で、よりの確に子どもの活動を観察し分析できる方法とそれを活かした指導法の研究につなげて行きたい。

参考文献

玉置哲淳、手良村昭子、瀧川光治 2001 新活動モデルに基づく造形活動の観察とその分析 エデュケア 大阪教育大学